

# 「鎌倉殿」と千葉常胤

## 七、千葉一族と妙見信仰（最終回）

毎週日曜日放送中のNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、千葉一族中興の祖・千葉常胤<sup>つねたね</sup>を俳優の岡本信人さんが演じています。

千葉一族は、北極星や北斗七星を神とした「妙見」を厚く信仰していました。千葉の妙見は武士の守護神らしく、甲冑<sup>かっちゅう</sup>をまとい、剣を持つ勇壮な姿で表わされます。一族が編さんに関わったとされる平家物語の異本「源平闘諍録<sup>げんべいとうじょうろく</sup>」には、常胤<sup>つねたね</sup>らが源頼朝を迎えるために出かけた留守を狙って平家方に攻め込まれた際に、妙見が戦場に現れ、わずかな手勢だった常胤の孫・成胤<sup>なりたね</sup>の軍を勝利に導いたという説話が残されています。



妙見菩薩倚像  
(妙印山妙光寺蔵)

この話は、成胤の子孫である下総千葉氏が一族の宗家であり、妙見の加護を受ける特別な存在であったことを意味しており、妙見の神威<sup>しんい</sup>により宗家の権威を高め、一族の結束を図るために創造されたものといえるでしょう。

常胤の活躍により、千葉氏は東北から九州に至る全国各地に所領を獲得し、勢力を拡大していきますが、一族が各地の領地に移住する際には必ず妙見を祀りました。そのため、かつて千葉一族の領地であった地域には、妙見に由来する寺社を多く見ることができます。

1126年に常胤の父・常重<sup>つねしげ</sup>が中央区亥鼻付近に拠点を構え、翌年には妙見の神霊をみこしに載せて千葉のまちを巡る「妙見大祭」が始まったとされます。北斗七星にちなんで7日間行われるこの祭りは、現在まで900年近くもの間、一度も途切れずに続いています。

他にも、相馬野馬追（福島県相馬市・南相馬市）や七日祭り（岐阜県郡上市）、小城祇園祭（佐賀県小城市）など、千葉一族や妙見にゆかりのある祭礼は全国各地で行われており、一族の広がりとその勢力の大きさを今に伝えています。 [千葉氏ポータルサイト](#) 🔍